

# 名川町におけるグリーンツーリズム

大川望美

## I はじめに

グリーンツーリズムは、もともと過疎化・農地放棄で悩むヨーロッパの農村地域の農業政策の一つとして生まれた。国の補助により、低価格で長期休暇を過ごすことができる農家民宿が整えられ、農家の農業以外の収入を得るための手段の一つとなった。これが、グリーンツーリズムの始まりといわれている。現在ヨーロッパでは、長期休暇（バカンス）を利用して農山村を訪れ、農家の営む民宿に滞在し、緑豊かな自然や人々との交流を楽しみながら、余暇を過ごすライフスタイルが定着している。

現在、日本の農村でも、低価格の外国産農作物の輸入や、市場での農作物の価格不安定・低所得、後継者不足などにより、農業の衰退・自給率の低下が深刻な問題となっている。また、政府が1987年に打ち出した「総合保養地域整備法」（通称；リゾート法）により、全国に次々とゴルフ場やリゾートホテル、テーマパークがつくられたが、バブルの崩壊により、多くの施設が多額の負債を抱えて破産し、その際の乱開発により、地方で自然破壊が進んだ。

このような農業の衰退やリゾート法の反省を背景に、日本でもヨーロッパで発祥したグリーンツーリズムの考え方を農業政策として取り入れようとする動きがでてきた。ヨーロッパのグリーンツーリズムを視察・研究してきたG T研究会の中間報告を経て、平成4年、農林水産省はグリーンツーリズムを「緑豊かな農山村・漁村において、その自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動と定義し、全国にグリーンツーリズムを推進・支援している。

グリーンツーリズムの特徴としては、美しい景観・新鮮な農作物・農家との温かい交流・農作業体験などといった、農山村のありのままの資源を利用すること、またその際に外部地域からの企業誘致などは行わないなどの点が挙げられる。

最近国民の間では、「スローフード」や健康ブームにより、新鮮で安全な食材や健康に目が向けられ、農業・農村に対する関心が高まっている。テレビ番組や雑誌・新聞のコラム等にも、農業・農村体験をテーマとしたものが数多く取り上げられ、人気を博している。

このような国民のニーズに対応して、全国各地の農山村では、農家が各地域の特色を生かし様々なグリーンツーリズムを展開し、過疎や農業衰退化に悩む農山村の活性化に役立っている。そこで、グリーンツーリズムにおいて、町全体で積極的な取り組みをおこなっている青森県名川町を取り上げ、その具体的な活動や農山村への影響、今後の課題などについて検討することを本論文の目的とする。

## II 研究対象地域

名川町は、青森県の南東端に位置し、総面積は83.45 k m<sup>2</sup>、平成12年国勢調査での人口は9,250人、世帯数2,782世帯の小さな町である。人口は毎年微減の状態が続き、高齢化が進んでいる。

北部は五戸町、東部は福地村・南郷村、西部は三戸町・南部町、南部は岩手県二戸市・軽米町と隣接する。東北本線(青い森鉄道)、国道4号線、国道104号線が通過し、また2002年12月に東北新幹線「はやて」が開通した八戸駅から、車で約30分の距離と、

比較的交通の便のよい位置にある。「はやて」とは、青森県まで開通した初めての新幹線で、東京と八戸間を、最速2時間59分まで縮めた。「はやて」開通による県内への経済効果は、年間639億円にも上ると言われている。「はやて効果」をいかに生かすか、県内各地で検討されている。名川町でも、首都圏から、「はやて」に乗って八戸駅に着いた観光客を、いかにして名川町へ取り込むかについて真剣に検討し、PR活動に力を注いでいる。

名川町は、年間平均気温9.7度と県内では比較的温暖な気候を活かした、果樹栽培を中心とする農業の町である。農業粗生産額においては、果実が56%と、全体の半数以上を占めており、次いで野菜が18%、米7%となる。果実の中でも、さくらんぼにおいては、県内第一位の生産量をほこり、青森県のさくらんぼ生産全体の35%を占めている。青森県のさくらんぼ生産量は、意外にも山形に次いで、全国2位であるが、このことはあまり知られていない。名川町は、県内ではさくらんぼの里として知られているが、山形県のように全国区の知名度はない。

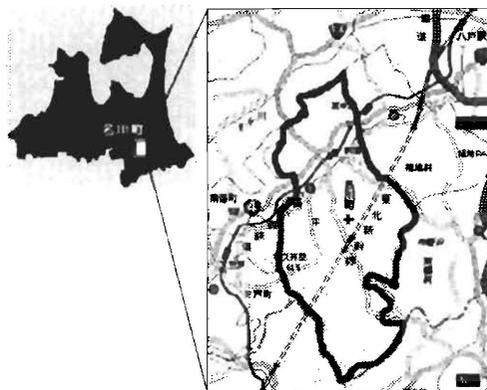
## III 名川町のグリーンツーリズムの展開

名川町は平成5年度に、農林水産省から、県で唯一「グリーン・ツーリズム推進モデル地区」の指定を受けた、グリーンツーリズムの町である。県内1位の生産量を誇るさくらんぼや梅、梨をはじめとした豊富な果樹農産物や、名久井岳ふもとの馬淵川流域に広がる美しい農村風景、素朴で温かい農家の人々の魅力を活用して、農業及び地域の活性化を促進している。本章では、名川町でおこなわれている、様々なグリーンツーリズムの取り組みについて、述べていくこととする。

(さくらんぼ狩り) …表1-①

昭和61年、第1回「さくらんぼまつり」のイベントの1つとして、さくらんぼ狩りを始めた。このさくらんぼ狩りが大好評で、毎年さくらんぼの季節になると、たくさんの観光客で賑わうようになった。さくらんぼ狩りの成功には、農家の人の並々ならぬ努力があった。昔はさくらんぼ

第1図：名川町の位置



の樹は高木で、農家は梯子を使ってさくらんぼの収穫をおこなっていた。その後、品種改良を繰り返し、今のような、観光客がさくらんぼ狩りをできるまでの、低木の品種を作る事に成功した。農家は非常に研究熱心で、現在でもさくらんぼ塾という勉強会を開いて、より客が満足するさくらんぼ作りをめざしている。農家の中には、さくらんぼを詰める化粧箱のデザインに挑戦している農家もいる。

第1表 名川町グリーンツーリズムの取り組み

年 度	主 な 出 来 事
1986 (S61)	・第一回さくらんぼまつり開催（さくらんぼ狩りはじめる）…①
1991 (H3)	・産地直売施設「名川チェリーセンター」オープン…② チェリーセンター101人の会に所属する、農家の奥さん達で運営 ・「さくらんぼ狩り体験ホームステイ」始める…③
1992 (H4)	・農水省がグリーンツーリズムを提唱
1993 (H5)	・名川町が農水省からグリーン・ツーリズムモデル地区指定を受ける →初めて農業体験修学旅行生の受入れ開始（神奈川）…④
1994 (H6)	・「ながわファームステイ連絡協議会」発足
1995 (H7)	・名川町農業体験実習館「チェリウス」が落成
1997 (H9)	・「名川ドライフラワーセンター」落成
2000 (H12)	・名川町ホームページ開設
2001 (H13)	・「名川町農業観光振興会」発足
2002 (H14)	・4月、「そばの里げやぐ」オープン ・5月、通年観光「四季のまつり」はじめる…⑤ ・12月、新幹線「はやて」八戸駅開業
2003 (H15)	・2月、「名川町農業観光関係機関連絡協議会」設立 ・8月、無料シャトルバス「ながわフルーツバス」運行開始
2004 (H16)	・10月、「達者村」開村

名川町勢要覧より作成

（チェリーセンター）…表1-②

平成3年、産地直売施設「名川チェリーセンター」がオープンした。これまでは、収穫した農作物を、市場やスーパーに出荷して収入を得るといった、一般的な方式をとっていた。しかし、出荷できる農作物は、一定の規格基準（均一の色や形・安定した作物数など）を満たさなければならず、そうでないものは捨てる他なかった。そこで、農家の奥さんのアイデアで、規格外の農作物を活用する方法として、様々な加工品が作られるようになった。このような加工品を販売する施設として建設されたのが、名川チェリーセンターである。チェリーセンターの運営は「チェリーセンター101人の会」に所属する、100人の元気な農家の奥さん達によって、運営されている。店に並べる商品の種類や値段を、自分で決めて販売するフリーマーケット方式で、すべての商品に生産者の住所・氏名・電話番号が記されている。新鮮でおいしい野菜や果物・加工品が、低価格で購入できるとあって、チェリーセンターの売上げは毎年伸び続け、平成11年には2億6千万円を突破している（第2図）。

(通年農業観光) …表1-⑤

平成14年4月、名川町は、「通年農業観光 四季の祭り」を始めた。通年農業観光は、名川町を訪れる観光客が、一年中いつでも農業体験できるようにしたいという農家の思いから生まれた。名川町は、柑橘類やバナナ以外の果物なら、何でも収穫できる。よってさくらんぼ狩りだけでなく、ぶどう狩りや、りんご狩り、プルーン狩り、梅狩りなども、年間体験メニューに加えた。しかし、名川町という「さくらんぼ」のイメージが定着しており、6月・7月のサクラんぼ狩りに観光客が集中し、通年農業観光全体の約97%を占めている。(第3図)

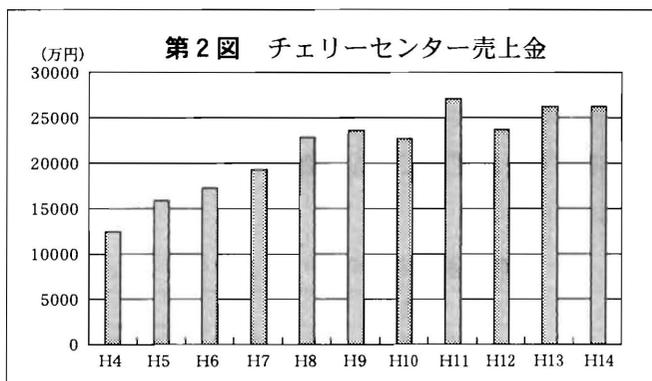
#### IV 名川町におけるファームステイ

(1) 農家によるファームステイ経営…第1表-④

平成5年、農水省からグリーン・ツーリズムのモデル整備構想策定地区の指定(全国で25市町村が選定される)を受けたことを契機に、同年、修学旅行生のファームステイ受け入れを開始した。ファームステイとは、農家の家に泊まり、生活を共にし、農作業体験や農家との交流を味わうものである。しかし第1表-③の通り、名川町は、農林水産省がグリーンツーリズムを提唱し、農家民泊を推進する以前から、さくらんぼ祭りのイベントとして、さくらんぼ狩り体験ホームステイをおこなっていた。

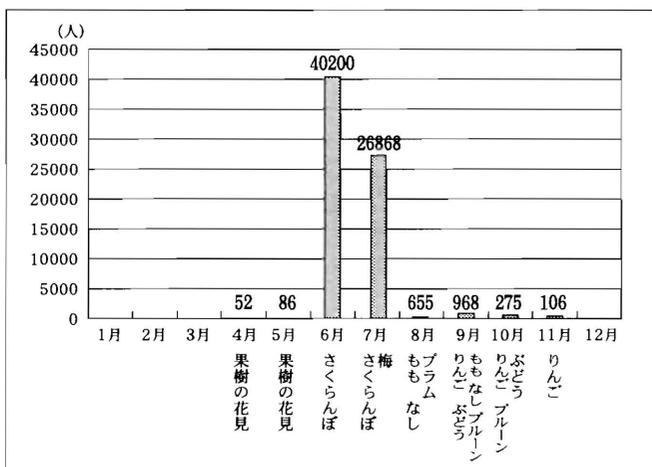
平成6年、「ながわファームステイ連絡協議会」を設立し、ファームステイの受け入れや、全国へのPR活動、国内外への研修・視察等をおこなっている。会員は現在21農家で、これからどんどん増やしていく方針である。今回、ファームステイ連絡協議会に所属している受入れ農家を対象にアンケート調査を実施した(平成15年度12月実施、アンケート回収率71%)。

受入れ農家の特徴として、夫婦ともに専業である会員がほとんどで、両方兼業である会員はいなかった。修学旅行生を受入れるファームステイにおいては、1日中生徒をみていなければなら



名川町役場資料「チェリーセンターの概要」より作成

第3図 通年農業観光における月別集客数 (H15)



ないので、会社勤めの兼業農家には難しい。受入れ農家の年齢をみてみると、40代～60代のベテラン農家がほとんどで、30代は一人もいなかった（第2表）。農業に関する知識や経験のほか、人間としても成熟していないと、農業と両立しながら中高生の子どもへの面倒を見るのは難しいと考えられる。

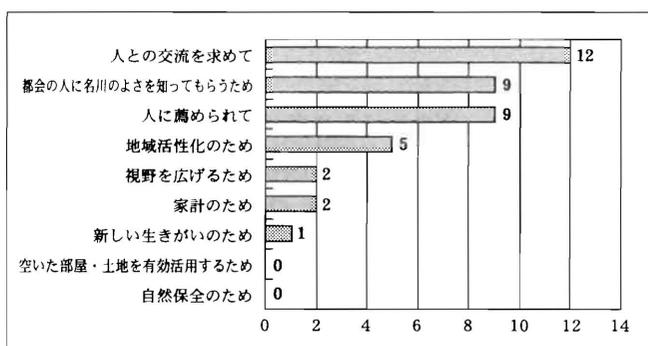
第2表 ファームステイ受け入れ農家 ※は主体経営者

番号	経営年数	受け入れ農家構成	主要作物ベスト3	農業以外の職業
1	15年	※夫(60)、妻	さくらんぼ、水稻、長いも	夫(公務員)
2	13年	※夫(50)、妻	りんご、さくらんぼ、梅	
3	10年	※夫(40)、妻	さくらんぼ、野菜、りんご	妻(福祉関係)
4	10年	※夫(50)、妻、息子	水稻、梅、野菜	
5	10年	※夫(50)、妻	りんご、さくらんぼ、梨	
6	10年	※夫(60)、妻、母	さくらんぼ、梅	夫(造園業)
7	10年	※夫(60)、妻	りんご、さくらんぼ、桃	
8	10年	※夫(60)、妻、姉	梅、ぶどう、水稻	夫(加工業)
9	10年	※夫(70)、妻	りんご、さくらんぼ、桃	
10	8年	※夫(60)、妻	りんご、さくらんぼ、桃	
11	7年	※夫(50)、妻、息子	りんご、さくらんぼ、桃	息子(公務員)
12	7年	※夫(50)、妻	りんご、さくらんぼ、桃	
13	2年	※夫(40)、妻	りんご、さくらんぼ、桃	
14	2年	※夫(40)、妻	りんご、野菜、梅	
15	1年	※夫(40)、妻	りんご、野菜、ブルーベリー	

アンケート結果より作成（ファームステイ会員15農家，H15，12月実施）

第4図はファームステイを始めたきっかけや動機についてのアンケート結果を示したものである（複数回答）。「人との交流を求めて」という回答が一番多かった。農家は日中農作業で忙しく、家を離れることができないので、外部との交流の機会が少ない。そもそもファームステイは、さくらんぼ狩りだけ

第4図 ファームステイをはじめたきっかけ・動機



アンケート結果より作成（H15，12月実施）

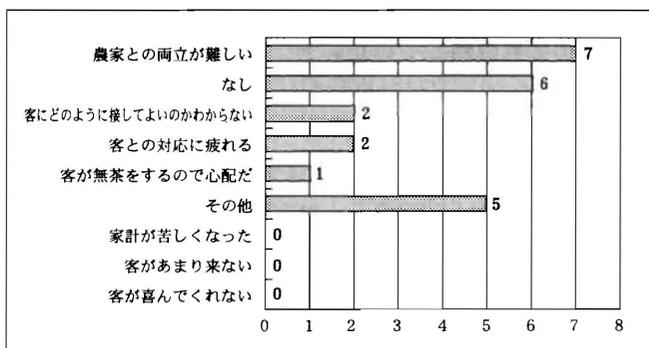
でなく、もっと観光客と交流したいという農家の声から生まれた。彼らが自主的・意欲的にファームステイを進め、他の農家の意識を啓蒙して、徐々に会員農家を増やしていった。また、そのような農家の要望をくんで、町役場が熱心に支援・後押しをしたことも、会員農家の増加につながっている。町役場には現役のさくらんぼ農家も所属し、農家の実情を理解しているので、住民と町役場の結束力が強い。

第5図はファームステイを始めて困ったことについてのアンケート結果を示したものである（複数回答）。

「農業との両立が難しい」という回答が一番多い。修学旅行シーズンは、各学校ほとんど同じで、一定の時期に集中してやってくる。そのシーズンが、さくらんぼの収穫期などちょうど一番忙しい時期にあたり、農業との両立が非常にたいへんだという。

その反面、「困ったことは何もない」と回答した農家が次いで多かった。最初は困難もたくさんあったが、今ではそれぞれの農家が独自のやり方を見つけている。

第5図 ファームステイを始められて、困ったと思うことをお答えください



アンケート結果より作成（H15、12月実施）

### （2）観光客の特徴（ファームステイ）

観光客の特徴としては、神奈川県や大阪府など、関東・関西の学校の修学旅行生が中心で、一般客はほとんどいない。今回私がファームステイ体験した受け入れ農家も、修学旅行生以外の客は私が初めてとのことだった。名川町だけでは、受入れ人数に限りのあることから、周辺地域にもファームステイ受入れを呼びかけ、平成7年から、三戸町、南部町、田子町を加えた4町での受入れを開始した。このことによって、生徒数の多い学校でも、4町に生徒を分配することで、受け入れることができるようになった。最近では、グリーンツーリズムを取り扱う旅行会社が増加していることから、名川町でもJTBや近畿日本ツーリストなどの大手旅行会社と連携を取り、

第3表 修学旅行生の受け入れ実績

年 度	学校・団体数	名川町	三戸町	南部町	田子町	全 体	受け入れ学校・団体所在地
平成5年	1〔校〕	38〔人〕	0	0	0	30	神奈川
H6	1	30	0	0	0	30	韓国
H7	2	40	37	37	37	151	神奈川(2)
H8	3	189	104	69	70	402	神奈川、大阪、韓国
H9	4	175	72	64	75	323	神奈川、大阪、ドイツ、韓国
H10	3	145	109	106	113	473	京都、神奈川、大阪
H11	5	224	178	175	155	706	京都、神奈川(2)、大阪、韓国
H12	6	246	210	206	201	839	京都、神奈川(2)、大阪(2)、韓国
H13	3	152	151	131	138	572	京都、大阪、神奈川
H14	8	483	258	192	203	1136	京都、神奈川(5)、大阪、青森

名川町勢要覧「農業体験修学旅行受け入れ実績」より作成

修学旅行生の受入れをおこなっている。

第6図 通年農業体験メニュー

## V おわりに

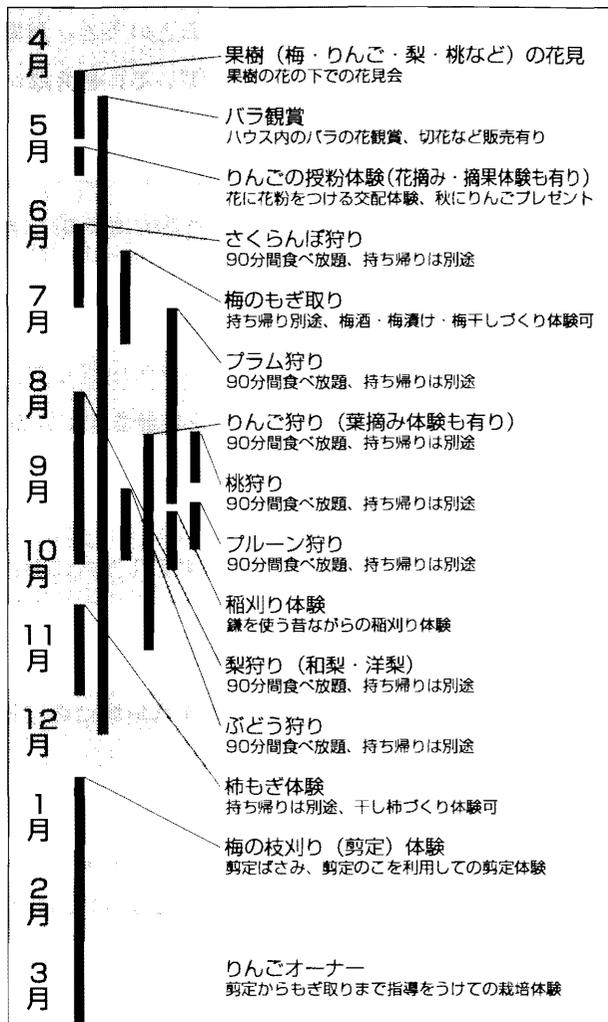
### (1) 今後の課題と展望

通年農業観光をめざす名川町の課題として、サクランボ狩りの季節以外の時期においても、安定した集客を得ることが求められている。そこで今後の取り組みとして、徹底した通年観光のPRのほか、これまでサクランボ狩りと秋祭りの時期にだけ運行した八戸・名川町間を結ぶ無料送迎バス（フルーツバス）を、通年運行させることを予定している。また、これまで個々に活動してきた、ファームステイ協会・チェリーセンター・チェリウスなどの運営組織を相互連携させることを目的とした、名川町農業観光関係機関連絡協議会を設立し、さらなる観光客の誘致促進・通年観光の町づくりをめざしている。

#### (第6図)

また、もう1つの課題として、名川町への一般観光客の滞在が望まれている。

名川町では、サクランボ狩りやチェリーセンターなどを目的とした日帰り客が約98%を占めており、宿泊客は約2%である。滞在型のファームステイにおいても、修学旅行生がほとんどで、一般観光客は少ない。その理由として、日本の会社員はまとまった休暇を取りにくい上に、本州最北端に位置する青森県と首都圏の距離の問題があげられる。そこで、平成15年の秋「達者村」の開村が予定されている。達者村とは、半永久的に住む村民を募集し、地元の人と触れあいながら、農村生活を満喫することのできる、長期滞在型のグリーンツーリズムである。達者村のターゲットは、時間とお金に余裕のある、熟年層世代である。定年後の新たな生きがいとして、グリーンツーリズムが見直されている今、日本における新しい旅行スタイルとして、注目されている。



## (2) 名川町型グリーンツーリズム（名川町役場 西村さんのお話から）

世間一般では、グリーンツーリズムというと、農家民泊や農作業体験などに限定されがちだが、名川町ではもっと広い意味でとらえている。例えば、農村に立ち寄り、ただ景色を眺めてのんびり過ごすことも、グリーンツーリズムの1つである。これがグリーンツーリズムだと決めることが、そもそもの間違いで、人の数だけグリーンツーリズムは存在する。名川町では、訪れた観光客の選択権を広げて、どのような観光客にも対応できるようにしている。グリーンツーリズムは農家なしには成立しない。農家は自分達の町の将来を担っている自分の仕事・役割に誇りをもち、常に新しいことにチャレンジしようとしている。そしてそのような農家の発想・要望を、町があくまでクロコに徹して、積極的にバックアップしている。このような住民主導・行政支援型の関係が、名川町のグリーンツーリズムを発展させていると考えられる。

### 【参考文献】

- 池永 正人（1999）：オーストリアアルプスにおける山岳観光の発展と山地農民の対応. 人文地理, 51-4, 62～79.
- 植田 和弘（1998）：環境と経済を考える. 岩波書店,
- 大橋めぐみ（2002）：日本の条件不利地域におけるルーラルツーリズムの可能性と限界. 地理学評論, 75-3, 139～153.
- 川村 牧子（2001）：持続可能なグリーンツーリズムを求めて. 和光大学人間関係学部卒業論文.
- 田辺 一彦（1988）：観光農園についての若干の考察. 人文地理, 40-4, 59～71.
- 筒井 一伸（1999）：中国地方の過疎山村における一地域振興の実態分析. 人文地理, 51, 87～103.
- 中山 昭則（2000）：自然休養村事業における観光振興と地域の活性化. 人文地理, 52-4, 13～24.
- 宮崎 猛（2003）：グリーンツーリズムの現代的意義と農村経済の内発的発展. 岐阜を考える, 115, 3～8.
- 広報ながわ（2002～2003）
- あおもり草子（2003）, 245